

introduction

この数年で人工膝関節全置換術 (total knee arthroplasty ; TKA) についてさまざまな新しいことが論じられている。大きなトピックの1つとして冠状面アライメントの考え方の変化が挙げられる。歴史的に「正解」とされていた、下肢機能軸に対して垂直にインプラントを設置する手法はTKAの長期成績を担保するために必要な考え方であった。一方で、その設置は非生理的であることも認識されていた。TKAの長期成績が向上するにつれて、術後に違和感を感じて不満足を訴える患者が一定数いることの問題がクローズアップされ、この「正解」とされた非生理的な設置に疑問を呈する考えが出てきた。さらに、病気がない状態の下肢アライメントは人によってばらつきが大きく、患者全員を同じアライメントに設置するのではなく、患者固有のアライメントに設置するほうが術後の違和感が少ないのではないかという考えも出てきた。それを実現するための手術法も複数提唱されている。このように、現在さまざまな考え方が乱立しており、理解が及ばないことも多々ある。何が正解なのかもまだ決着しておらず、日本人と欧米人との骨形態の人種差も考えなければならない。本特集では、これらのトピックを多く取り上げて系統立って理解できるように企画した。

また、TKAの機種についてもさまざまなものが出てきている。モバイルベアリング、メディアルピボット、前十字靱帯機能付加、セメントレスなども昨今のトレンドである。ロボット支援手術や患者コミュニケーションデジタルツールも見逃せない。本特集がTKAのトレンドを把握するために専門家にも非専門家にも役立つものとなるよう願っている。

東京女子医科大学整形外科
岡崎 賢